

ISO/TC149/SC1、

及びWG13、WG14、WG15国際会議報告

期 日 : WG15	5 月 10 日 (火) 10:00~17:10
	11 日 (水) 10:00~14:10
WG14	11 日 (水) 14:35~16:00
WG13	12 日 (木) 10:00~16:25
TC149/SC1	13 日 (金) 10:00~15:20

場 所 : 国際飯店 会議室 (中国・上海市)

出席者 : (株)シマノ・吉村 (WG 14 及び WG 15 Convenor)、高橋、パナソニックサイクルテック (株)・河波 (WG 13 対応国内作業部会座長)、柳川、ブリヂストンサイクル(株)・磯田、ヤマハ発動機(株)・平野、小澤、木場 (IEC/TC 61 リエゾン)、ボッシュ(株)・高橋、シマノヨーロッパ・松井、シマノ上海・松井、シマノ昆山・横山、(一社)自転車協会・菅野、(一財)自転車産業振興協会・坪井、遠藤、山田 (WG 13, WG 14, WG 15 Secretary, 国際幹事)、Stefan Berggren (WG 13 Convenor : アメリカ, TREK)、Philippe Legrand (SC1 議長: フランス, BNA)、Siegfried Neuberger (TC 149 議長: ドイツ, ZIV)、Eduard Stolz (IEC/TC 69 リエゾン: スイス)、Zhong Chao Ma (中国, CBA)、Ding Wu Chen (中国) をはじめ 9 か国 65 名

1. ISO 4210-10 (Cycles — Safety requirements for bicycles — Part 10: Safety requirements for electrically power assisted cycles (EPACs))新規策定

WG 15—Convenor : 吉村慎二 (日本, シマノ)

Convenor Support Team : 山田玄一 (日本)

- ・ヤマハ発動機小澤氏、山田、坪井より、たたき台として作成した ISO/WD4210-10 のプレゼンを行った。
- ・マレーシアやオーストリアにおいても別のレギュレーションを検討中である。
- ・各国の道路交通法毎に規定していたのでは“標準化”にはならない
- ・規格の適用範囲を 2 輪の電動アシスト自転車に限定する。(但し、アシスト比率は限定しない。中国、アメリカで道路交通法上は“免許なしで乗れる乗り物”として認められている、ペダリングせずにスロットルレバーにより加減速する電動自転車は適用外とする。)
- ・上記への整合のため、規格の Scope を『two wheeled electrically power assisted cycles』とする。
- ・また Cycle の定義を『any vehicle which has at least two wheels and is propelled by the muscular energy of the person on that vehicle, in particular by means of pedalling or the possibility of adding assistance provided by electric motor when pedalling. Note: Pedalling also refers to use of handcranks or other similar devices.』とする。
- ・中国のエキスパートからは、中国ではペダリングせずにスロットルレバーにより加減速す

る電動自転車も“免許なしで乗れる自転車”として扱われているとの反対意見が出されたが、それは ISO ではモペッドとして取り扱われ、ISO/TC 149 (Cycles) ではなく ISO/TC 22 (Road vehicles) のテリトリであると説明し承認された。

- ・道路交通法によるタイプ分けではなく、欧州、日本、アメリカで売られている 2 輪の電動アシスト自転車を、モーターの定格出力 (W)、アシスト比による制限の有無、最高走行速度、乗員体重などで大きく 3 つぐらいにクラス分けする。
- ・定格電圧を 48 V 以下と規定していることについて、中国のエキスパートから IEC の区分では 42 V となっているとの修正意見が出されたが、EN 15194 では 48 V 以下と規定していることから意見がまとまらず継続審議となった。
- ・日本の電動アシスト自転車はアシスト比の上限値が決まっていることから通常のシティ車と同基準とする。
- ・要求事項、試験方法はできるだけ一つに統一する。タイプにより判定基準に差があるだけである。
- ・EMC (電磁両立性)、モーターの定格出力測定方法、アシスト比率の測定方法など、電動アシスト自転車に必須な試験項目は統一する。
- ・日本は ISO/CD for comments を 6 月末までに作成する。
- ・メンバー国は 10 月末までにコメントを提出する。
- ・コメント処理・規格案検討のための WG15 国際会議を来年 1 月 17 日～19 日に日本で開催する。その後、CD-2 を作成し、投票を実施する。
- ・WG15 国際会議を来年 6 月 23 日にポルトガルで開催される TC 149/SC 1 国際会議に併せ開催する。

2. ISO 8090 (Cycles — Terminology) 改正

WG 14—Convenor : 吉村慎二 (日本, シマノ)

Convenor Support Team : 山田玄一 (日本)

- ・坪井より、ISO 8090 改正の手順についてプレゼンを行った。
- ・ISO 8090 は、英語で drop handlebars と呼称されている部品を、フランス語では cintre course、ドイツ語では rennlenker、日本語ではドロップ形ハンドルバー、韓国語では드롭 핸들 바等と呼称していることを一覧表にした規格であるが、近年では取扱説明書の多言語化によりその重要度が高まってきている。
- ・現行規格は英語、フランス語の 2 か国語で作成されているものを、ドイツ語、イタリア語、ポルトガル語、オランダ語などの欧州言語と、中国語、韓国語、日本語などのアジア言語の追加を目指す。また、現行規格が 1990 年に発行されたものなので、掲載部品の追加など内容をアップデートする。
- ・規格の編集作業は日本が担当し、2018 年中の発行を目指す。
- ・まず、10 月末までの期間で、各国エキスパートから新規に追加すべき部品の募集を行う。規格に追加するためには、部品外形図の電子データ (DXF、EPS フォーマット。入手できなければ写真データでも可。) が必要となる。
- ・次に、日本のエキスパートで部品名称入力用のエクセルファイルを用意する。その後、ア

アメリカのエキスパートにより、英語による呼称の列を埋める作業を行う。

- ・2017年にWG14国際会議を開催し、他に追加すべき部品はないか、削除すべき部品はないか、英語による他の呼称はないかの議論を行う。
- ・部品リストが完成したところで、National member Body(NMB)が自国言語を入れるよう希望した国で、自国言語による呼称の列を埋める作業を行う。このエクセルファイルを2017年11月末までに提出できなかった言語については、規格には入れない。
- ・日本のエキスパートによりDIS案を作成し、DIS投票を経て、ISO規格とする。
- ・ISOの公式言語は英語、フランス語、ロシア語の3ヶ国語で、その他の言語については各国NMBの責任の元に刊行され、単に情報として規定されたものとなる。
- ・フランスからの提案により、ISO 4210の適用範囲外のBMXに関連する部品も追加することとなった。
- ・規格の適用範囲を『This International Standard defines a description of common terms and symbols used in the field of bicycles and two wheeled EPACs. The terms are classified under a nomenclature of different parts of bicycles and two wheeled EPACs, and presented in several languages.』と修正する。
- ・スウェーデンのエキスパートから、スウェーデンでは英語を活用し、翻訳しないのでスウェーデンの列は不要との発言があった。
- ・規格の適用範囲の変更、ISO 8090改正の手順については承認された。

3. ISO 4210 (Safety requirements for bicycles)、ISO 8098 (Safety requirements for bicycles for young children)改正

WG 13—コンビナー：Mr. Stefan Berggren, Secretary：山田玄一（日本）

- ・ISO 6742-1~5（灯火装置とリフレクタ）、ISO 14878（自転車用警告音器）が発行されたため、ISO 4210-2もそれらを引用規格とする。
- ・シマノヨーロッパ松井氏から、テストマシンを使用したブレーキの制動性能の測定試験で、インターバルの時間が最大値しか規定されておらず、最短時間で実施した時と最長時間で実施したときで、試験時間で10倍、ブレーキの熱容量で7倍の差が生じることをプレゼンした。
- ・その結果、従来は1分間以内に3回の測定を行い、その平均値で評価していたが、厳しすぎることから、それぞれの測定の間には1分間の冷却時間を設けることとなった。
- ・耐熱性試験に規定された『immediately』の解釈は継続審議とする。
- ・ペダルの衝撃試験については、ペダルに生じた亀裂は不合格とみなすこととし、検証試験を継続する。
- ・剛体前ホークについては、加盟国の確認が取れ次第、オフセット量が0のものを使用するよう規定する。
- ・パナソニックサイクルテック河波氏から、WG13対応国内作業部会から提案した車種を識別するためのマーク（3案）のプレゼンを行った。議論の結果、提案Aが受け入れられたが、文字による車種名の記載を削除するとともに、子供車のマークの修正を求められ、再度提案することになった。

- ・アメリカから提案のホイールとタイヤアセンブリのクリアランスの規定で、『between the tyre and any frame or fork element or a front mudguard and its attachment bolts.』の文言については、議論の結果『element』を削除することとなった。
- ・アメリカの自転車メーカーがリコールを実施しているフロントディスクブレーキを使用した前輪ハブのクイックレバーとローターの隙間の規定については、ASTM で審議中の規定文を追加することになった。
- ・ISO 6699 (ハンドルバーの中央部とハンドルステムの組付寸法) の審議段階で提案のあった滑り止めの溝 (Knurling) の寸法、ステム内面への面取り等の意見については、ISO 4210 の規定で十分であるとして却下された。
- ・アメリカからドロップハンドルバーとステムの疲労試験の試験荷重の変更については、フランスからも試験力の方向についての意見が出され、今回の国際会議にて継続審議とした。
(審議資料は 2017 年 4 月までに提出)
- ・今回の国際会議は SC1 に併せ開催する。

4. ISO/TC149/SC1 国際会議

議長: Mr. Philippe Legrand (フランス), 国際幹事: 山田玄一
議論の結果、次のように決議した。

4-1. 作業部会報告

○WG 11 については、ISO 11243 (キャリア)、EN/ISO 11243 の両規格が発行され次第、解散する。

Resolution 69-2016

ISO/TC 149/SC 1 decided to disband WG 11 – " Revision of ISO 11243" when both ISO /EN 11243 will be published..

○すでに規格が発行された WG 12 (自転車用警音器) については、2016 年 5 月末で解散する。

Resolution 70-2016

ISO/TC 149/SC 1 decided to disband WG 12 – " Audible warning devices" on the end of May 2016.

○WG13 (ISO 4210 及び ISO 8098 の改正) からの報告と今後のスケジュールが承認された。

Resolution 71-2016

ISO/TC 149/SC 1 decided to adopt the report of WG 13 and the schedule as presented by Mr. Berggren.

○WG 14 (ISO 8090 (部品名称) の改正) で議論が始まった ISO 8090 (部品名称) の適用範囲を自転車と 2 輪の電動アシスト自転車に関連する部品名称とする。

Resolution 72-2016

ISO/TC 149/SC 1 decided to adopt the modification of the scope for ISO/WD 8090 as

follows:-

Scope:

This International Standard defines a description of common terms and symbols used in the field of bicycles and two wheeled EPACs. The terms are classified under a nomenclature of different parts of bicycles and two wheeled EPACs, and presented in several languages.

NOTE In addition to terms used in the two official ISO languages (English and French), this document gives the equivalent terms in German, Italian, Dutch, Portuguese, Japanese, Chinese, Korean; these are published under the responsibility of the member body for ISO and are given for information only. Only the terms and definitions given in the official languages can be considered as ISO terms and definitions.

○WG 15（電動アシスト自転車）の国際会議を 2017 年 1 月に日本で開催することが承認された。

Resolution 74-2016

ISO/TC 149/SC 1 decided to circulate for approval (CIB) the modified scope of ISO/WD 4210-10 as drafted by WG 15 meeting which will be held during January 2017 meeting.

○規格の解釈確認のための手続きを規定した修正文書（文書番号 N870）を適用することが承認された。

Resolution 73-2016

ISO/TC 149/SC 1 decided to apply the modified Interpretation panel procedure (DOC. ISO/TC 149/SC 1 N 870) for interpretation.

4-2. リエゾンからの報告

○ISO/TC 31/SC 10(Cycle, moped, motorcycle tyres and rims)からの報告

ISO/TC 149/SC 1 と ISO/TC 31/SC 10、及び ETRTO (The European Tyre and Rim Technical Organisation) の間で、ISO と ETRTO との double logo 規格を作成するための共同作業を開始することが承認された。

Resolution 76-2016

Liaison officers are mandated to draft cooperation agreement between ISO/TC 149/SC 1 and ISO/TC 31/SC 10 and ETRTO (The European Tyre and Rim Technical Organisation) to be balloted for approval (CIB) in SC 1 by the end of June 2016.

Resolution 77-2016

When approved by SC 1, cooperation agreement will be presented to ISO/TC 31/SC 10 and ETRTO to obtain formal agreement ISO Central Secretariat, ETRTO and ISO/TC 31/SC 10 in order to have double logo (ETRTO/ ISO) publication.

リエゾンを継続する。

Resolution 65-2016

ISO/TC 149/SC 1 decided that the liaison with ISO/TC 31/SC 10 will be maintained.

ISO/TC 31/SC 10 へ派遣するリエゾン要員として、Mr.Legrand（フランス）に加え、Mr.Berggren（アメリカ）が指名された。

Resolution 75-2016

ISO/TC 149/SC 1 decided to confirm Mr. Legrand and nominate Mr. Berggren as liaison officer for ISO/TC 31/SC 10.

○WF S G I (World Federation Sport Goods Industry)からの報告

ロードレーサー用のディスクブレーキの試験方法を UCI に提案するため、CEN TC333 WG 8 とともに試験方法の提案を行っている。また、UCI のホイールの認証試験については、1 モデルにつき 1,100 ユーロもかかるので、新しい自己認証のための試験方法を検討している。最終的には、その試験方法を ISO 4210 にも規定することを目指している。その他、タイヤとリムの適合性、ロードレーサーの下限重量（6.8 kg）の検討を行っている。

リエゾンを継続する。

Resolution 66-2016

ISO/TC 149/SC 1 decided that the liaison with WFSGI will be maintained.

○IEC/TC 61(Safety of household and similar electrical appliances)とのリエゾン
リエゾンを継続する。

SC1 から IEC/TC 61 へ派遣するリエゾン要員は日本から小澤（ヤマハ）、柳川（パナソニック）、高橋（シマノ）の 3 名、中国から Mr.ShiGuang Yu(中国自転車標準化中心)、Mr.DingWu Chen(上海 EV Sales&Service)の 2 名とする。

Resolution 67-2016

ISO/TC 149/SC 1 decided that the liaison with IEC/TC 61 will be maintained.

ISO/TC 149/SC 1 nominated Mr. Ozawa (Japan) and Mr. Yanagawa (Japan), Mr. Takahashi (Japan), Mr. Yu (China) and Mr. DingWu (China) as liaison representative for IEC/TC 61.

○IEC/TC 69(Electric road vehicles and electric industrial trucks)とのリエゾン
リエゾンを継続する。

中国の代表者から、IEC/TC 69 へ派遣するリエゾン要員も指名すべきとの提案があったが、日本、ドイツ、オランダ等の反対により、従来どおり派遣しないことになった。

Resolution 68-2016

ISO/TC 149/SC 1 decided that the liaison with IEC/TC 69 will be maintained.

4-3. 今後の業務項目提案

なし

○次回の ISO/TC 149/SC 1 国際会議は、ISO/TC 149 と合同で、2017 年 6 月 19 日~23 日にポルトガルで開催する。

Resolution 78-2016

The next SC 1 and working groups meeting will be held in Portugal from 19 to 23 June 2017 in conjunction with ISO/TC 149.



国際会議の状況

以 上